



「笹川杯作文コンクール 2010」～中国語で応募～ 第4回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「日本円に描かれた“文化的英雄”」

上海市 陳占彪

今年の夏、私は6日間の日本ツアーに参加した。客観的に言うと、今回のツアーは満足できるものではなかった。上海という世界中の何処と比べても引けを取らない大都市で10年以上も暮らしてきて、日本に行って感じられる“現代化”なるものに興奮を覚えることなどそうそうない。例えば、誰もがより高速な“リニア”に乗れるというのに、“新幹線”に驚きを期待することができるだろうか？誰もが“東方明珠”の高さ263mの展望ロビーに上がることができるし、上海環球金融センターの474mもの高さの100階展望ロビーにも上がることができるというのに、東京都庁の202mの高さしかない展望台にどれほど震撼することができるだろうか？また、このツアーが“文化観光”と称して巡った先々には免税店があって、日本の商品を買うばかりで、日本文化の精髓を子細に観察するどころではなかったのも、文化比較もできなければ語ることもできない。

しかし、この満足とはほど遠いささやかな日本旅行でも、日本について深く印象に残った小さなことはいくつかある。こうして今思い出しても感心してしまうことばかりである。

“歩行者優先”のマナーなどは、我々にとってとても“新鮮”なものである。上海では平日ものすごい勢いで車が走っていて、怖い思いをしたり、よけたり、立ち止まったりしないことなどあり得るだろうか？ドライバーは、歩行者を見つけると、クラクションを鳴らしたり怒鳴ったりするのである。しかし、日本では違うのである。歩行者を見つけると、決まって車は静かに停止して歩行者を先に通すのだ。私は、中国国内での習慣から、初めはまだ車を見ては足を止めていた。そして、ドライバーが「お先に」と示してくれてから歩き出していたものである。最も感動したのは、日本旅行の最終日だった。成田空港のホテルで飛行機を待つ間、信号機のないところを渡って向こう側のスーパーへ向かおうとした時のことである。路上には車が少なかったのも、どの車も比較的スピードを出していた。道路を渡ろうとした時、遠くに車が見えたので、我々はその通過を待つことにした。まさかその車が減速して止まってまで、我々を先に通してくれるとは思わなかった。そんなことができる人は中国には殆どいないが、日本では誰もができるようである。

我々は“礼儀の国”から来た観光客であったのだが、日本人の礼儀正しさと謙虚さには感動させられた。礼儀正しさは口先だけで実現できるものではなく、忍耐力が要るものである。日本人は我慢強いのだ。ツアーバスが箱根の温泉ホテルに着いた時、支配人が門前で待っていて、一人一人に笑顔で頭を下げていた。ルームキーを受け取った時も、支配人はわざわざ部屋の前まで案内してくれた。こうしたことは、簡単なことだろうか？まあ簡単ではある。たかがお辞儀ではないか。ただ、それがどれほど面倒なものかは、試してみればよい。それこそが、礼儀というもの、或いは、文明というものかもしれない。

日本ツアーでは日本文化を堪能することはできなかったが、日本人が文化を重んじるということは十分に感じ取ることができた。日本にいれば日本の貨幣に関わらないわけにはいかないが、そこに描かれた人物像には私を引きつけ、深く考えさせるものがあった。例えば、一万円札には福沢諭吉、五千円札には樋口一葉、千円札には野口英世の肖像が印刷されている。世界の多くの国々において、紙幣には自国の皇帝や政治家が印刷されている。日本の紙幣にあるのは、同民族の思想家、小説家、医学者といった文化人の肖像なのである。文化面の（政治面ではない）ヒーローに対する尊敬の念は、日本民族の貴く優れた特徴である。中華民族は悠久の歴史、豊かな文化を誇るが、孔子、魯迅、曹雪芹、李時珍といった人物達の胸像が人民元に印刷される日は来るのだろうか？

かつて魯迅先生が日本人の“真面目さ”に学べと説かれたが、日本人の真面目さは、その“細やかな”一面に現れている。例えば、化粧品のジャンルの多さである。男性向け、女性向け、50代向け、30代向けと、めまいがするほどある。他にも、普通の水銀式体温計では子供の体温が測りにくいということで、耳たぶに一秒間あてるだけの機種が開発されていたりする。ドライヤーの放射熱が子供に危険だということで、髪を乾かす専用のタオルが、老眼の人でも足の爪が切りやすいように、ルーペ付きの爪切りが、等々。その細やかさこそが、将に少しも手抜かりのない日本人の真面目さを表している。

日本には偽物が出回っていないので、騙される心配もなく買い物ができるという。日本では一物二価になることもなく、価格交渉の手間もない。日本は治安が良いので、スリやひったくりの心配もないそうである。そんな日本で生活することができたら、のびのびすることができるのではないだろうか？

率直に言って、日本で最も深く印象に残ったものとは、日本人が誇る現代化でもなく、風物文化でもない。それは、日本人が日常生活の一挙一動に見せる素養の高さである。素養が高いというのは羨ましいことであるし、当然、学ぶに値することだと思う。